

第 21 回 鋼構造と橋に関するシンポジウム 「大地震による鋼橋の被害と復旧，改善の歴史と未来」



地震大国である日本において，社会資本整備の歴史は地震との戦いの歴史といっても過言ではありません。文明開化と共に始まったわが国の鋼橋の建設は，その後，数多くの大地震により甚大な被害を受けるたびに，その被害を教訓として発展，進化してきました。

関東大震災以後，長い間，標準的な構造物の耐震設計法として使われてきた「震度法」は，兵庫県南部地震による甚大な被害を大きな契機として，コンピューターの処理速度の著しい高速化，発展の力も借りながら，非線形性を考慮した地震時保有耐力法，動的解析を取り入れた耐震設計へと進化しました。その後，新潟県中越地震，新潟県中越沖地震，東北地方太平洋沖地震，熊本地震と多くの大地震を経験し，そのたびに新たな被害，新たな知見を得て，耐震設計は進化し続けており，昨年の道路橋示方書の改定やこの度の土木学会の鋼・合成構造標準示方書“耐震設計編”の改定に至りました。

橋の耐震設計の変革の契機となった兵庫県南部地震から 20 年以上が経過し，当時の被害状況を直接知らない若手技術者が橋の耐震設計にかかわる機会も増えているのではないかと思います。今回のシンポジウムでは，これらの若手技術者をはじめ，橋の耐震設計にかかわる技術者を対象として，多くの大地震を経験して進歩してきた橋の耐震設計の進歩の歴史，切迫性の高い東海地震，東南海・南海地震，首都直下地震などを乗り越えるためにはまだ発展途上である現在の耐震設計の課題や，これからの耐震設計のあり方などについて，各方面から話題提供をいただき，今後の鋼橋の耐震設計のあり方，鋼構造の持つ可能性について議論したいと思います。

東京会場 行事コード：25801 略称：東京 21 回橋シンポ

大阪会場 行事コード：258011 略称：大阪 21 回橋シンポ

1. 主催：土木学会（担当：鋼構造委員会）
後援：日本鉄鋼連盟、日本橋梁建設協会、鋼橋技術研究会、建設コンサルタンツ協会（予定）
2. 日時・場所：
【東京会場】平成 30 年 8 月 3 日（金）10：00－17：00（受付開始 9：20～ 受付終了 16：00）
法政大学市ヶ谷キャンパス富士見ゲート 4 階 G403 教室
（東京都千代田区富士見 2 丁目 1 7-1）
【大阪会場】平成 30 年 8 月 6 日（月）10：00－17：00（受付開始 9：20～ 受付終了 16：00）
建設交流会館グリーンホール（大阪市西区立売堀 2 丁目 1-2）
3. 定員：150 名（法政大学），150 名（建設交流会館）
4. 参加費：一般 6,000 円，学生 1,000 円（テキスト代含む）
5. 申込み締切日：平成 30 年 7 月 20 日（金）
6. 申込方法：
学会誌綴込みもしくは土木学会ホームページ内

(<http://www.jsce.or.jp/event/active/form.pdf>) の「本部参加申込書」に所定の事項（特に行事コード番号）を明記のうえ、研究事業課行事担当宛に FAX (03-3355-5278) でお申し込み下さい。申込到着後、開催日 1 週間前までに折返し「参加券」をお送りいたします。

土木学会個人会員の方は土木学会ホームページ

(<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp>) から申し込みが出来ます。

※申し込みに関してのお願い

- (1) 参加費は原則事前振込とさせていただきます。 なお、所属先の経理上の都合により事前振込が出来ない場合には通信欄にその旨お書き添え下さい。
- (2) 申込締切日前に定員に達している場合がございますのであらかじめご了承ください。なお、締切日以降の事前受付はいたしません。ただし、定員に余裕がある場合のみ、行事当日に会場にて受付いたします。
- (3) お申込み後、やむを得ずキャンセルされる場合は、必ず開催日の 1 週間前までに下記の「問合せ先」にご連絡ください。ご連絡がない場合は、参加費を徴収させていただきますのであらかじめご了承ください。
- (4) 申込みをされる前に送金いただくことはトラブルの原因となりますので固くお断りいたします。

7. 問合せ先：土木学会研究事業課 尾崎

TEL03-3355-3559 MAIL fumiharu-ozaki“at”jsce.or.jp (“at”を@に変更して下さい)

8. プログラム

午前：委員会報告・話題提供 (10:00～12:15)

1) 開会の挨拶 (10:00～10:05) 鋼構造委員会 委員長

2) 委員会活動報告 (10:05～10:15) 鋼構造委員会 幹事長

3) 基調講演

「地震工学研究は橋の耐震性向上に何をもたらしたか？」

東京工業大学名誉教授 川島一彦

(10:15～11:15)

4) 鋼・合成構造標準示方書“耐震設計編”の改定 ―“想定外”への対応に向けて―

鋼構造委員会耐震設計編改定小委員会 委員長 後藤芳顕

(11:15～12:15)

休憩

午後：話題提供・事例紹介（13:20～17:00）

- 5) 「兵庫県南部地震で失ったもの、伝えるべきもの、そして活かさなければならないもの」
阪神高速道路 建設・更新事業本部 神戸建設所長 金治英貞
(13:20～14:00)
- 6) 「東北地方太平洋沖地震における橋梁の震災経験とその後の研究の進展」
国土技術政策総合研究所 熊本地震復旧対策研究室長 星隈順一
(14:00～14:40)
- 7) 「熊本地震の被害と復旧、今後への展望・提案」 九州大学 准教授 梶田幸秀
(14:40～15:20)
休憩
- 8) 「長大橋耐震、東北地方太平洋沖地震での被害と復旧、その後」
首都高速道路 土木技術担当部長 田嶋仁志
(15:35～16:15)
- 9) 「鋼鉄道橋の地震被害と復旧、これらを踏まえた地震対策の取組み」
(公財) 鉄道総合技術研究所 池田学 (国土交通省 出向中)
西日本旅客鉄道株式会社 構造技術室 鋼構造担当課長 西田寿生
(16:15～16:55)
- 10) 閉会の挨拶 鋼構造委員会 副委員長 (16:55～17:00)

※懇親会の開催について

東京会場において、シンポジウム終了後、下記により懇親会を開催いたしますので、参加ご希望の方はシンポジウム当日、受付にてお申し込み下さい。

日時：8月3日（金）17:30～18:30

会場：法政大学 市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート3階 つどひ

会費：2,000円程度（予定）